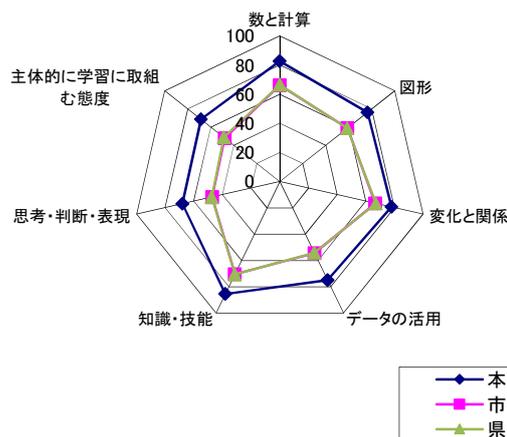


宇都宮市立清原北小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	82.6	66.1	66.4
	図形	76.4	58.9	58.8
	変化と関係	78.0	66.6	67.0
	データの活用	75.0	54.4	54.2
観点	知識・技能	85.5	70.4	70.6
	思考・判断・表現	68.0	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	68.6	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○分数や小数の計算、簡単な場合についての割合の求め方などは、県の正答率より5ポイント以上高い。命数法を記数法で表すことや帯分数－真分数の計算の正答率は、100%だった。</p>	<p>・引き続き、基礎・基本的な計算を繰り返すとともに、数の大小を比較する問題に多く取り組ませたり数直線上で数の大きさを考える場面を設定したりするなど、数量の概念のさらなる定着を図る。</p>
図形	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○角の大きさを求めたり平行四辺形の作図をしたりする問題など、すべての内容で県の平均より5ポイント以上高い。</p>	<p>・面積の大きさや単位の間接を理解するために、実物を使ったり大きさがイメージできるものと結び付けたりできるようにする。</p>
変化と関係	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○図を使って基準量を求めるための立式や伴って変わる2つの数量関係を式に表す問題など、県の正答率より5ポイント以上高い。</p>	<p>・引き続き、2つの数量を比べる問題の確認と記述での解答の仕方を押えた指導をしていく。</p>
データの活用	<p>平均正答率は、市・県の平均より高い。</p> <p>○折れ線グラフから変わり方を読み取ったり二次元表を正しく読み取りする問題など、すべての内容で県の正答率より5ポイント以上高かった。</p>	<p>・引き続き、基礎・基本を押さえた指導をするとともに、理科や社会で折れ線グラフや棒グラフが出題されたときも想起させ、発展的に考えられるようにする。</p>